

早稲田大学環境総合研究センター・ふくしま広野未来創造リサーチセンター
第4回運営会議
議事メモ

日時：2018年4月19日（木）16:15～18:00

会場：福島県いわき市平字白銀町 2-10 TATAKIAGE BASE（タタキアゲベース）

記録：李 洸昊

出席者（敬称略）：

松岡 俊二	早稲田大学ふくしま広野未来創造リサーチセンター長
	早稲田大学アジア太平洋研究科・教授
小松 和真	福島県広野町復興企画課・課長補佐
磯辺 吉彦	NPO 法人・広野わいわいプロジェクト・事務局長
菅波 香織	未来会議・事務局長・弁護士
南郷 市兵	福島県立ふたば未来学園高等学校・副校長
永井 祐二	早稲田大学環境総合研究センター・研究院准教授

事務局

李 洸昊 ふくしま広野未来創造リサーチセンター事務局

1. 第2回ふくしま学(楽)会開催について

(1) 開催日程・会場

2018年8月4日（土）に、前回と同じくリサーチセンターの事務所のある広野町二つ沼公園パークギャラリーで開催する。翌日は、檜葉町で開催される原子力損害賠償・廃炉等支援機構（NDF）第3回福島第一廃炉国際フォーラムに参加する方向で調整する。

＜第3回福島第一廃炉国際フォーラム＞

2018年8月5日（日）@檜葉町コミュニティセンター：「地元の皆様と考える 1F」

2018年8月6日（月）@いわき芸術文化交流館アリオス：「技術と考える 1F」

(2) テーマ設定

下記の4つのテーマを今後2つ程度に絞って考えていく。テーマ①～③を1つにまとめ、テーマ④を単独のテーマに置く方向で調整する。

＜テーマ＞

①まちづくりと市民参加

窪田先生の取り組み地域の福島県南相馬市小高区との南北交流を考慮しながら調整する。

②農林水産業と風評問題

大手先生の取り組み地域の福島県伊達市小国地域も含め、農林水産業の専門家にも含めて調整する。

③再生可能エネルギー・スマートタウン

永井先生を中心にしながら、再生可能エネルギーとスマートコミュニティについて、J ヴィレッジや檜葉町も考慮に入れて調整する。

④1F 事故処理・廃炉・汚染水問題

森口先生を中心に、トリチウムなど汚染水問題を含め、1F の事故処理・廃炉問題について調整する。

(3) 学（楽）会の役割

第 2 回からは将来世代も含め、浜通り地域や双葉郡 8 町村の復興に向けた具体的な提案を作成することを目指す。そのため、第 2 回に呼ぶべき民間関係者や行政関係者についても十分配慮しながら検討する。

(4) 準備会合およびテーマ別研究会

上記テーマとその他の準備のための準備会合やテーマ別研究会を、福島において月 1 回（5 月、6 月、7 月）のペースで行う。最初の会合は、5 月 18 日（金）にふたば未来学園で開催し、高校生も含めて 4 つのテーマの可能性や興味について議論する。

2. 文部科学省・福島県の新規事業について

「大学等の『復興知』を活用した福島イノベーション・コースト構想促進事業」が 1 億 5 千万円規模で決定されている。早ければ 5 月にも募集が出る可能性があるため、上記の 4 テーマとふくしま学（楽）会を中心に、広野町と協力してリサーチセンターとして申請する。

3. W-BRIDGE の申請について

重点研究活動委託研究（1 件 100～400 万円程度）が公募中であり、重点テーマの中の下記のテーマを中心に考える。菅波さんや磯辺さんを研究代表者とし、既存の活動（ハイロミライバーなど）を活用する形で、5 月 18 日に申請書を提出するように進める。

<重点テーマ>

(3) 環境人材育成分野 1～2 件採択予定

- ・アジアにおける SDGs を担う人材育成
- ・環境無関心層の取り組み社会を変える新しい手法

(4) 総合環境分野 1～2 件採択予定

- ・地球温暖化緩和策及び適応策（レジリエンスの観点も含む）

4. 広野町と早稲田大学環境総合研究センターの協定について

今後の文科省・福島県の新規事業などを考えると、広野町と早稲田大学環境総合研究センター間の協定が必要。今後の活動をあまり複雑にしない範囲で考えるため、「覚書」締結の方向で、時期も含めて検討する。

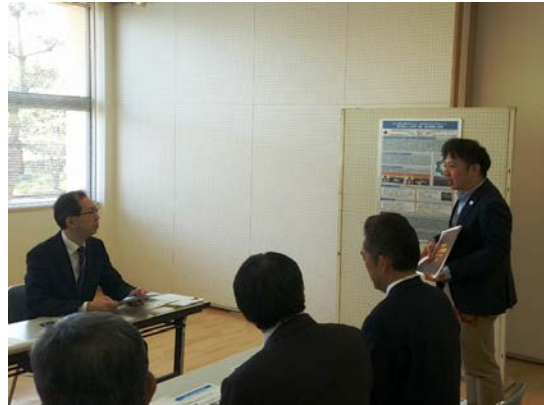
5. ふくしま広野未来創造リサーチセンターの副センター長について

副センター長であった中津弘文課長が辞職したため、副センター長をどうすれば良いかについて議論したが、センター活動に特に支障はないため、当面、継続する。招聘研究員等については、適宜、補充する。

付帯行事

2018年4月20日（金）に内堀雅雄・福島県知事が「大学等が広野町に設置しているセンター」を視察するため、リサーチセンターの事務所がある広野町二つ沼公園パークギャラリーを訪問した。その際、早稲田大学の永井先生が、内堀知事にリサーチセンター設立の背景、目的、現在および今後の活動などについて説明を行った。内堀知事は、2018年1月28日に開催された「第1回ふくしま学（楽）会」に関心を示した。とりわけ、ふくしま学（楽）会が既存の場とは異なり、ただ専門家が住民からの質問に答えるのではなく、専門家から住民に何が問題なのかを聞いて、参加していた住民、行政、研究者のお互いの考え方の違いや共通点などを確認した点や、ふたば未来学園の高校生から意見を聞いて議論した点などの多世代交流の場としての学（楽）会に非常に高い興味を示した。内堀知事は、遠藤町長にも学（楽）会に参加した感想を聞くなど、学（楽）会の重要性を強調し、リサーチセンターの今後の活躍に期待することを表明した。

会場の様子



以上